

兵庫県青年洋上大学同窓会 南淡ジュニアウオーターキャンプ2010 実施報告書

2010年8月13(金)~8月15日(日)



主催 兵庫県青年洋上大学同窓会
南淡ジュニアウオーターキャンプ実行委員会
〒650-0011
神戸市中央区下山手通 4-16-3 兵庫県民会館 7階

報告書作成 井上清吉

◆◆◆ 目次 ◆◆◆

- | | |
|---------------------|-------------|
| 1. 実施概要 | 8. 食事及び買い出し |
| 2. スタッフ組織図 | 9. 事故・事件対応 |
| 3. スタッフの役割 | 10. アンケート結果 |
| 4. 保護者説明会 | 11. 活動報告 |
| 5. キャンプ中の
スケジュール | 12. ミーティング |
| 6. 施設紹介 | 13. 評価・反省 |
| 7. 参加者について | 14. おわりに |

1. 実施概要

名 称：南淡ジュニアウオーターキャンプ2010

主 催：兵庫県青年洋上大学同窓会

目 的：長年、兵庫県青年洋上大学同窓会は地域の青年リーダー育成及び青少年の健全育成のため、数々のキャンプを実施してきたが、昨年度実施した「サバイバルキャンプ2009」が子ども、保護者とも非常に好評であり、平成22年度も実施してほしいとの強い要望があった。また、スタッフの会議でも子どもの「生きる力の醸成」や「環境教育の推進」などの見地から指導案やプログラムの広がりが期待されるものとの意見で一致し、当会の事業の意義を社会に広く認められるために、本年度もキャンプ事業を実施する。

(取り組みの基本)

洋大同窓会の基本三事業の一つ「青少年事業」の理念、‘地域社会に根ざした青年リーダーの育成とこころ豊かな人づくり’の観点から、本事業を実施する。

◆参加者者（子供たち）に対して…

- ・自然の豊かさを肌で感じ、自然環境を大切に作る気持ちを養う
- ・集団生活での適応能力を養い、社交性を身に付ける

◆スタッフに対して…

- ・地域社会の中の青年リーダーとして、その自覚を養う
- ・互いに想像を膨らませ、企画立案～遂行に至るまでのスキルを身につける

実 施 日：平成22年8月13日（金）～8月15日（日）

（7月25日（日）神戸・明石地区保護者説明会

8月5日（木）淡路地区保護者説明会

8月22日（日）写真展示会）

実施場所：南あわじ市南淡B&G海洋センター艇庫（兵庫県南あわじ市阿万塩屋町2624-14）

参 加 者：21名（内訳：男子9名 女子12名 神戸・明石13名 淡路8名
小学5年生10名 小学6年生11名）

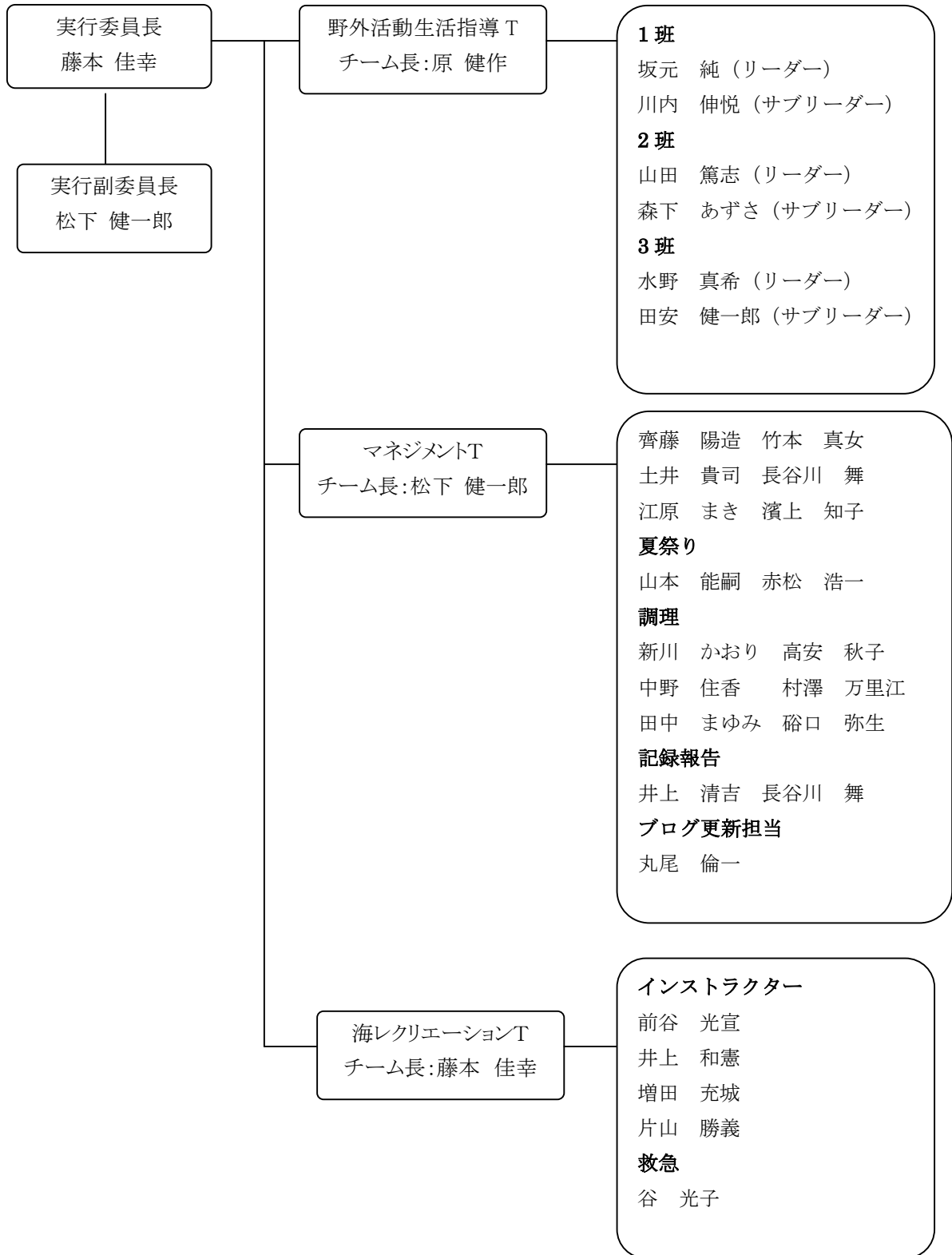
スタッフ：30名（詳細はスタッフ組織図参照）

（内訳：同窓会生22名 地元（B&G関係及び看護師）5名 その他3名）

助成団体：財団法人 笹川スポーツ財団

活動内容：フィッシング、カヌー、バナナボート、飛び込み、海洋生物観察、野外炊飯、
観潮船による渦潮観察など

2. スタッフ組織図



3. スタッフの役割

スタッフの役割は下記の通り。役割に応じてスキルを向上させることが求められた。

実行委員長	キャンプの責任者。 キャンプ全体を統括する。統括責任者。
野外活動生活指導チーム	チーム長はキャンプのプログラムの運営、子供達への指導を行う。
チーム長・リーダー・サブリーダー	リーダー、サブリーダーは、子供達に一番近い大人として、一緒に活動を行う。
マネージメントチーム	キャンプ全体の運営（事務）担当者。
チーム長・マネージメントスタッフ	チーム長をリーダーとして、キャンプに関する事務手続き・募集・広報、渉外活動、物品管理、予算管理等を行う。
海レクリエーションチーム	海での活動を専門に指導する。

◎野外活動生活指導チームとして…

- ①他スタッフの意見を幅広く聞き、プログラム及びスケジュールの基礎を作る
- ②キャンプの意義や目的をしっかりと持った上で、プログラムの内容を練り上げる
- ③全体を通じてプログラムを実行する際は中心となって動く（人任せにしない）
- ④プログラム全体の流れを把握し、円滑なスケジュール運行に努める

◎リーダーとしての基本条件

- ①心身ともに健康であること
- ②子供が好きであること
- ③野外生活が好きで、自然を愛する心が持てること
- ④子供たちに何か伝えられるものを持っていること
- ⑤野外生活に耐えられる気力と体力を持っていること
- ⑥非常時でも物事を冷静に判断できること

◎良きリーダーになるために…

- ①子供の目線で一緒に楽しむことができる
- ②子供が抱えている問題を親身になって相談にのれる
- ③ユーモアセンスを持って子供と接することができる
- ④常に子供に見られていることを意識し、手本となるよう行動する
- ⑤子供からのSOS（体調不良や情緒不安）を見逃さない

◎マネージメントチームとして…

- ①全体を通じてキャンプの運営が滞らないよう適確で適時に緒手続きを行う
- ②細部に渡って気配り、必要器材の手配や渉外等の段取り調整を努める
- ③非常時を想定し、連絡ルートや最寄りの医療機関、交通機関の調査等を行う

4. 保護者説明会

7月25日(日) 神戸・明石地区 保護者説明会 兵庫県民会館 304号室

時刻	内容	備考
8:30	スタッフ集合、受付準備	
9:00	受付開始、会場設営	
9:30	開会、あいさつ	
9:40	アイスブレイク	自己紹介ゲーム
10:20	キャンププログラム説明	
10:40	持ち物説明	
10:50	質疑応答	
11:00	閉会、会場片付け	



8月5日(木) 淡路地区 保護者説明会 西淡公民館

時刻	内容	備考
19:00	受付	
19:30	開会 あいさつ	
19:35	キャンププログラム説明	
20:00	持ち物説明	
20:20	質疑応答	
20:30	閉会、会場片付け	

主催キャンプにおいては事前説明会を実施している。主たる内容としては参加する子ども同士の顔合わせ、プログラムや持ち物についての説明を行っている。昨年に引き続き、神戸と淡路で2回開催し、ほとんどの保護者及び子どもの参加があった。初めて参加する子、一人で参加する子もいるので友達作りのきっかけの場として重要となっている。又、保護者の方へ直接、スタッフがプログラムや安全面について説明することで、事業についてご理解いただけるよう努めている。

5.キャンプ期間中のスケジュール

8月13日(金)

時刻	内容	備考
8:30	スタッフ集合 受付準備	JR舞子駅南広場
9:30	受付	
10:00	出発式 JR舞子駅出発	貸し切りバス利用
12:00	艇庫到着 昼食	淡路スタッフは午前から準備
12:30	淡路地区参加者受付	
13:00	開会式	
13:15	海洋レクリエーション(カヌー、ローボート、飛び込み、バナナボート)	随時休憩
17:00	野外炊飯	
21:00	班別のふりかえり、シャワー	
22:00	参加者就寝 スタッフミーティング	
23:00	ミーティング終了	
24:00	消灯	

9時半頃から子ども達が集まってくる。説明会以来、スタッフも子ども達も久しぶりでやや緊張気味。バスで淡路島へ出発。車内ではバスレクで盛りあがった。

現地でいよいよ神戸・明石組と淡路組が合流して、2泊3日過ごす班が完成。早速、海洋レクリエーションへ。海へ入る前に参加者全員がライフジャケットを着用し、水辺での安全講座を受けた。カヌーやローボートはパドルやローの使い方が子ども達には少し難しそうだったが、飛び込みやバナナボートでは水に落ちて大喜び。

17時から野外炊飯。普段はなかなか包丁を持つこともない子ども達も少しずつ挑戦。初日のせいか、なんとなく男子、女子に分かれての作業になってしまう班も。何はともあれバーベキューを楽しんだ。食事が終わると一日のふりかえり、シャワー。1日の疲れが出たのか子ども達は就寝。昨年は蚊に悩まされたが今年は蚊帳をつった。その後、スタッフはミーティングで翌日の予定確認と初日を通しての子ども達の様子と明日以降の対応について遅くまで語り合った。



8月14日（土）

時刻	内容	備考
6：30	スタッフ起床 朝食準備	
7：00	参加者起床、洗面、朝のつどい	
8：00	朝食	
9：00	海洋レクリエーション（フィッシング）	
12：00	昼食	
13：30	海洋レクリエーション （カヌー、生き物採集・観察）	随時休息
15：00	休憩・片付け （小雨・雷のため食材争奪カヌーレースは中止）	
16：00	野外炊飯	
20：00	福良湾花火大会鑑賞及び手作り夏祭り	
21：00	班別のふりかえり、シャワー	
22：00	参加者就寝 スタッフミーティング	
23：00	ミーティング終了	
24：00	消灯	

2日目。子ども達は7時に起床。朝のつどいで体調を確認。艇庫周辺の清掃作業を行う。その間にスタッフは朝食準備。朝食ではスタッフがベストなフルーツ配合比率を探すのに苦心したミックスジュースも登場。なかなかの評判。

午前はフィッシングに挑戦。艇庫周辺の岸壁から釣り糸を垂らした。ほとんどの子は初めての体験で、まったく釣れないのではと心配したが、けっこう釣れて、20匹ぐらい釣る子もいた。釣れた魚はお昼に焼いて食べることができた。

昼食はスタッフが準備。大きな鉄板で豪快に焼きソバをした。

昼からは前日に引き続きカヌーや、海辺の生き物を採集・観察した。生き物採集では小さなカニなどが捕まえられた。観察では生き物のスケッチをしてもらった。カヌーは最後に班対抗のカヌーレースをする予定だったが、雨が少しふってきたので中止とした。レースの順位によって、夕食の材料が決まることになっていたもので、結局、ジャンケンで決めたが、子ども達は残念がっていた。

夕食の野外炊飯は班毎にカレーやシチューを調理。このころになると各班ともすっかり打ち解けて、積極的に調理に取り組んだりする様子が見られた。各班とも夕食にはほぼ満足したようだった。

夕食後、福良湾の対岸で花火大会が始まった。スタッフからは今年の新しい取り組みとして、夏祭りをテーマに夜店風にラムネ、カキ氷、バームクーヘンなどを配った。つぎつぎ上がる花火を見ながら、夏らしい雰囲気となった。

2日目も班別のふりかえりの後、子ども達は就寝。スタッフミーティングでは初日は戸惑っていた班付リーダーも慣れてきたとのこと、また子ども達の積極性が高まったりして、各班で変化がみられたことなどが報告され、最終日へ繋げていくことを確認した。



8月15日（日）

時刻	内容	備考
5:30	スタッフ起床 朝食準備	
6:00	参加者起床、洗面、朝のつどい	
7:00	朝食	
8:30	艇庫出発、観潮船乗り場へ移動	移動は貸し切りバス
9:30	観潮船にて渦潮見学	
10:30	渦潮見学終了 艇庫へ移動	
11:00	思い出工作	写真立てを作成
12:30	昼食	
13:30	グループワーク（キャンプのふりかえり）と発表	発表は一人ずつビデオ録画
14:30	閉会式	
15:00	艇庫出発 淡路地区参加者は解散	移動は貸し切りバス
17:00	JR舞子駅到着 解散	JR舞子駅南広場

いよいよ最終日。渦潮を見に行くために今日は子ども達も早起きした。朝食は自宅から持参した牛乳パックを使ってホットドッグ作り。身近な物を使って作れるので、同窓会のキャンプでは毎回のお楽しみとなっている。

8時半、観潮船乗り場へ出発。9時半から観潮船・咸臨丸に乗って、渦潮見学へ。大鳴門橋の周辺では、かなり迫力のある渦潮を見ることができたが、少し船に酔ってしまう子もいた。

艇庫に戻って、貝殻を使って写真立て作りに挑戦。子ども達それぞれの工夫が光る。

昼からは班毎にキャンプ全体を通してのふりかえり。一番楽しかったこと、あるいはもっとしたかったことなど話し合った。発表は一人ずつビデオ録画をしながら。最初は照れていた子ども達も、だんだんカメラに向かって元気よく話せるようになっていった。

グループワークが終わると閉会式。淡路からの参加者とはここでお別れ、バスが出発するまで見送ってくれた。

バスは予定どおり到着。保護者の方が迎えにいらして、無事に解散。2泊3日は短かったかもしれないが、子ども達にとって忘れられない思い出になってくれればと思う。



6.施設紹介

○施設名

兵庫県南あわじ市南淡B & G海洋センター艇庫位置 (goole 地図参照)

○住 所

兵庫県南あわじ市阿万塩屋町2624番地16

○ 連絡先

南あわじ市教育委員会生涯学習文化振興課 前谷

TEL 0799-37-3020

FAX 0799-37-3040

南あわじ市南淡B & G海洋センター艇庫

TEL 0799-52-3205



7. 参加者について

- ・ 募集対象 小学4年生～小学6年生 40名
- ・ 募集方法 1 以前のキャンプ事業参加者へのチラシ送付
2 保護者へのよびかけ
- ・ 募集結果 21名（内訳：男子9名 女子12名 神戸・明石 13名 淡路 8名
小学5年生10名 小学6年生11名）

参加者 21名（神戸・明石地区 13名 淡路地区 8名）

	男子	女子	計
4年生	0	0	0
5年生	4	6	10
6年生	5	6	11
合計	9	12	21

昨年は31名の参加があったことを考えると、今年は大きく減少している。昨年は教育委員会に後援依頼をして小学校にチラシを配布するなど行ったため、募集定員（20名）を超える申し込みがあり、追加で受け付けるほどであったが、今年は取り組みが遅く学校に対するアプローチもできなかった。特に来年以降の参加も期待できる4年生の参加がなく、今年の6年生が抜けると、来年度は継続参加者だけで考えると非常に参加者が少なくなることが予想される。来年はプログラムをより魅力的にすることはもちろんだが、参加者募集への積極的取り組みを行わなければならない。

8. 食事及び買出しについて

	8/13（金）	8/14（土）	8/15（日）
朝食		ホットケーキ ゆで卵 ミックスジュース	カートンドッグ 牛乳 フルーチェ
昼食	各自弁当	焼きそば	ミートスパゲッティ
夕食	バーベキュー じゃがバター マシュマロパイ	カレー又はシチュー3種類 （班ごとに異なる）	

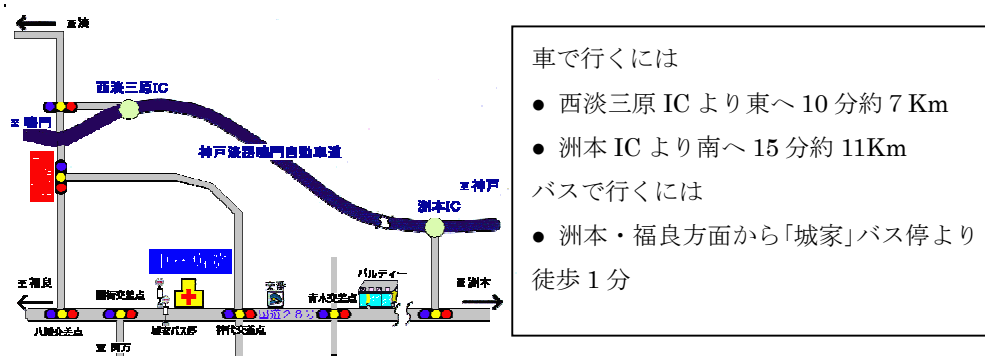
- ・ 献立は上記のとおり。参加者のアレルギーなどについては健康管理表にて確認済み。今後は、栄養バランス観点からさらに献立を工夫して考えてみる必要もある。
- ・ 食材の調達については地元商店より数回に分けて配達してもらった。（買出しに人手をとられないように、スタッフによる買出しは最小限にとどめた）
- ・ 13日昼食と夕食以外はスタッフによる調理（小学生が参加の中心となるキャンプで自炊回数を増やすと、食事準備に時間をとられ本来のプログラムができなくなる恐れがある）
- ・ 上記以外におやつとして14日、15日にはスイカを提供した。また、プログラム中の休憩時間には熱中症予防のため十分な水分と塩分がとれるようお茶と塩飴を準備した。
- ・ 炊事用具、洗い場などは昨年より設備が充実したのでスムーズとなった。キャンプ生活での役割分担の一貫として、来年は参加者も班ごとに食器洗いをするなどさせてはどうか。

9.事故・事件対応について

●キャンプ活動時	
神戸地区	南淡B & G 海洋センター艇庫 0799-52-3205
	参加者移動時 (13日集合、15日解散など) キャンプスタッフ 保護者対応責任者 原 健作 (ハラ ケンサク) 090-7350-9719
南あわじ市	南淡B & G 海洋センター艇庫 0799-52-3205

▶ キャンプ期間中の救急対応病院

中林病院 南あわじ市神代国衙 1680-1 0799-42-6200



南あわじ市休日診療所 南あわじ市賀集八幡字森の木 32-1 0799-53-1536

▶ その他連絡先

キクカワストアー 0799-53-1323 0799-53-1998 (FAX) 兵庫県南あわじ市福良甲 1530-11

上記のとおり緊急連絡先・連絡方法を設定した。

- ・ キャンプ中に発生した事故は擦り傷 3 件、打ち身 2 件。いずれも現地に配置している看護師による応急処置にて対応した。

その他に昨年も今年も事故・トラブルには繋がってはいないが、艇庫周辺には水上バイクを持ち込む一般客もいるため、海洋レクリエーションの際は十分な注意が必要である。

(艇庫周辺は艇庫所有地ではないため立入禁止にはできない。)

対外的な事件ではないが、子どもが大切にしていた水中メガネを海に落としてしまい紛失するという事があった。本人はかなり気にしているようであり、スタッフでも探したが沈んでしまっているようで発見できなかった。

10. アンケート結果

南淡ジュニアウォーターキャンプでは下記の通りアンケートを行い、事業の効果測定を行った。

調査方法と項目

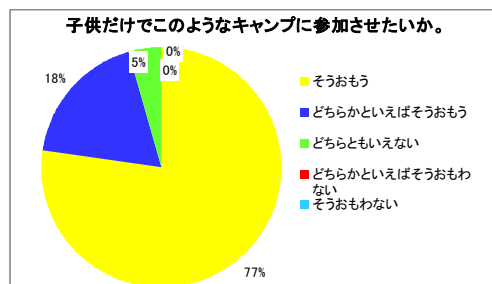
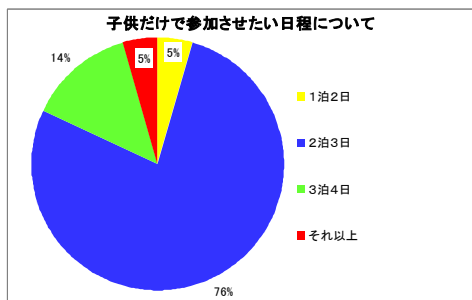
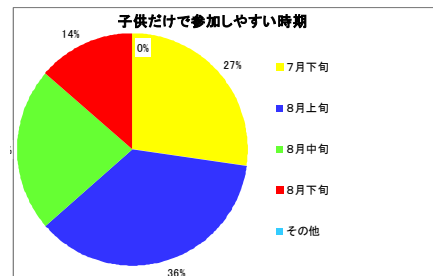
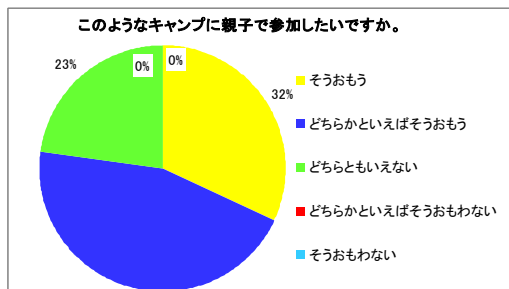
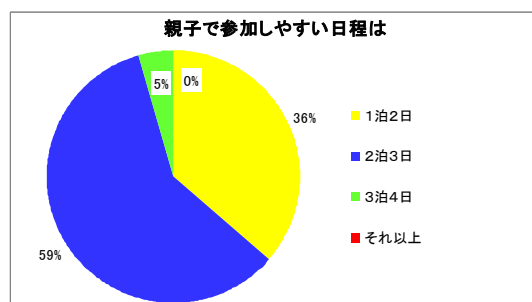
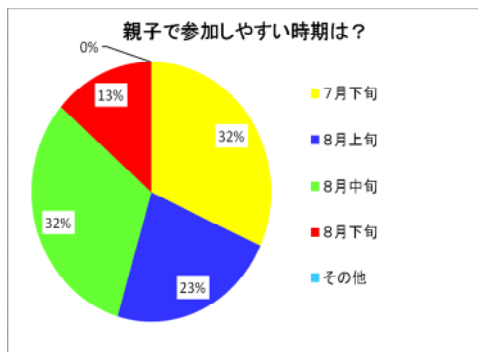
- ・ 募集時におけるアンケート n=22
- ・ 参加者アンケート n=21
- ・ スタッフアンケート n=21
- ・ 保護者アンケート n=11

アンケートの目的

今回実施したウォータースポーツを中心とするキャンプについて成果を検証するとともに、今後の課題を探る。また、親子でのキャンプなどのニーズ調査も行う。

《集計結果》

募集時におけるアンケート



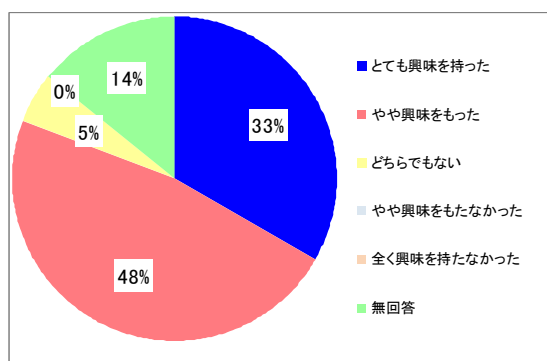
《事前アンケート結果から》

おおむね8月下旬以外の夏休み期間中であれば、子ども、親子キャンプとも実施希望時期の偏りはないと思われる。子どもだけのキャンプに比べ親子の場合は1泊2日の日程を希望が多い。

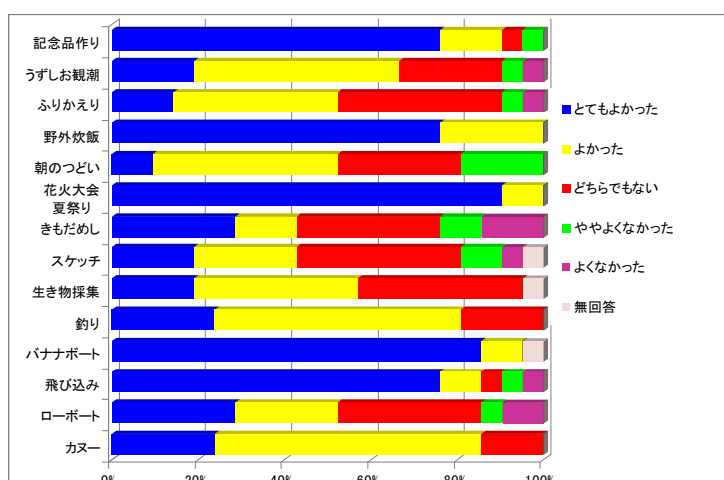
2泊3日程度のキャンプが望まれているが、子どものみの場合は1泊2日を希望する割合が少ない。

事業終了時における参加者のアンケート

このキャンプを通じて海の活動に興味を持ちましたか？



8割の参加者がキャンプを通じて、海の活動に興味を持つようになりました。

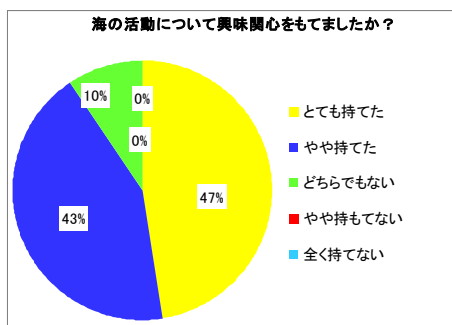
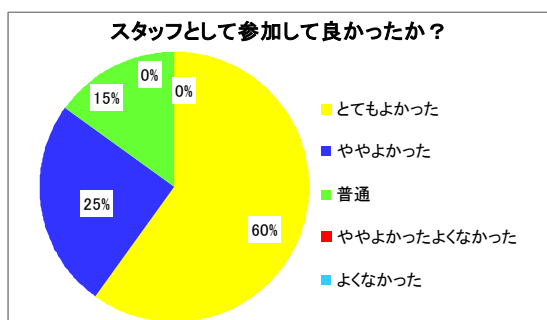


参加者が良かったと感じた項目は花火大会（夏祭り）バナナボート 飛び込み 野外炊飯 記念品作りであった。

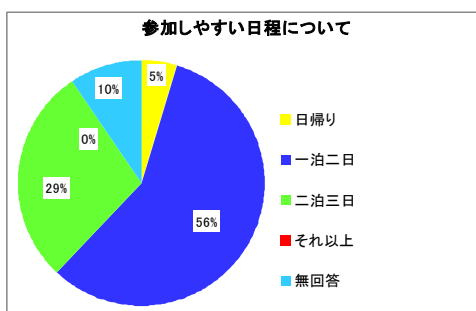
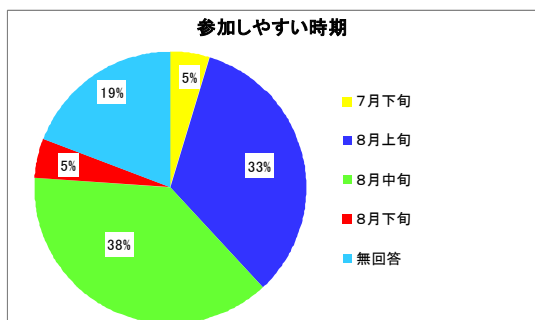
《自由記入欄 キャンプの感想から 抜粋》

- 6年生で終わりのこのキャンプは、最後にとってもサイコーなものになりました。楽しかったです♡
- 最初にみんなと会った時よりも仲良くなれて男と女って感じに初めは分かれていたけど、2日目から男と女に分かれることなくできて良かったです。飛び込みのこの3日間のキャンプでみんなと仲良くなったことや、いろいろなことが気付けたと思います。とっても楽しいキャンプでした。
- バナナボートが一番良かったです。理由は、いつ落ちるかわからないからです。夏祭りの花火がきれいかったです。バウムクーヘンがとてもおいしかったです。3日間楽しかったです。
- キャンプはあまり行かないので、出来ていい経験になれたし、友達も増えて良かった。スタッフさんありがとう！
- このキャンプで一番楽しかったことは、海での活動で、カヌーやバナナボートです。ほかにも魚釣りで魚が釣れた時は、すごくうれしかったです。このキャンプはとっても楽しかったです。
- 私は2班でした。2班の子達と友達になれて、とてもうれしかったです。一番初めに話しかけてくれたのは、ゆうなちゃん&もえのちゃんです。2人とも私の一つ下の5年生です。5年生から話しかけてもらう私って…ちょっとおかしいかな？って思ったけど、みんなと自然に話ができるようになっていたのでウォーターキャンプでは友達がたくさん増えました。

事業終了時におけるスタッフのアンケート



約8割のスタッフが参加してよかったと回答し、約9割が海の活動に興味をもてた。と回答



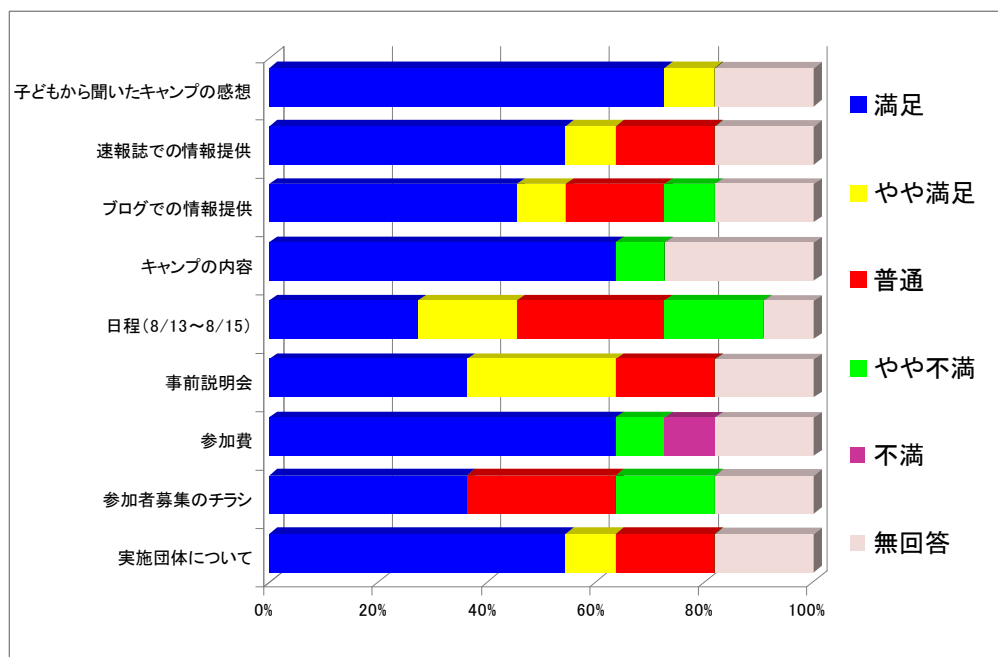
スタッフとして参加しやすい時期は8月上旬・中旬であり、1泊2日の日程が一番参加しやすいようです。

《自由記入欄 キャンプの感想から 抜粋》

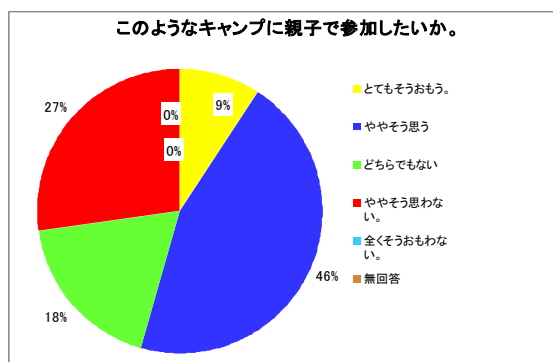
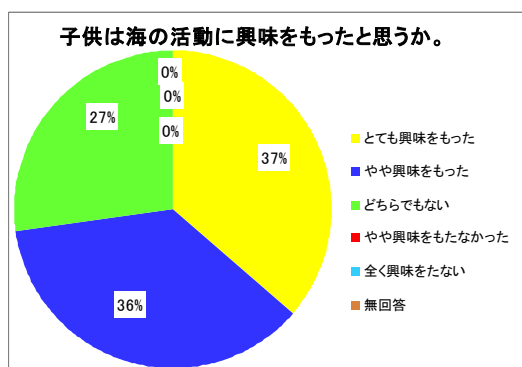
- 徐々に打ち解けて、仲間で協力し合う姿勢が見られた。
- 日が経つにつれて、他の子供とも大人とも仲良くなっていくので、できることなら2泊3日がいいと思う。
- 最初は知らない者同士で、ぎこちなかった班の中でしたが、時間が経つにつれて、お互いが協力し合い、そして子どもたち自身もその事をととても実感した様でした
- 当初、ひとつひとつに文句を言って行動していたが、最終日にはすすんで手伝いをしてくれるようになっていた
- みんなが協力して作業している様子が見れることが、1日毎に回数が増えていって良かったです
- 初日は受身的な印象があったけど、日にちが経つと積極的に動いてくれていた。食べた後も「ありがとう」と言ってくれる子が多かった
- リーダー、サブリーダーがつくことで、班としての団体行動に統制を図ることがある程度できたと思う。その中で子どもたちも自分勝手な行動から、団体意識がめげばえ、共に動くことの大事さや仲間意識がでてきたと思います。

事業終了時における保護者のアンケート

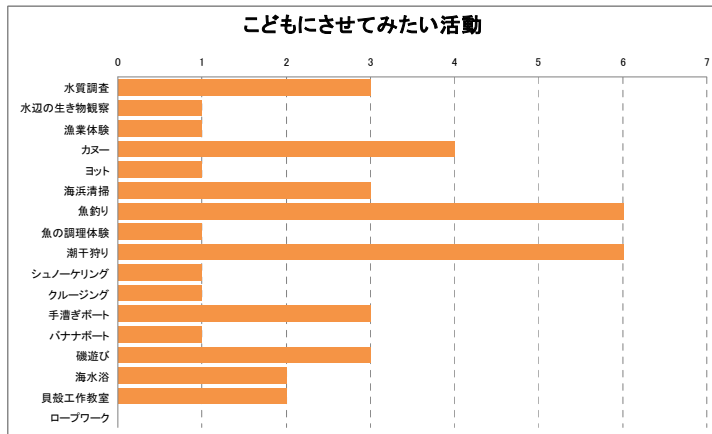
満足度調査



満足度の高かった項目に、子どもの感想、キャンプの内容、参加費（1万円）である。



保護者の眼からも、子どもが海の活動に興味を持ったと感じる割合が7割を超えるようである。事業終了後のアンケートでも5割を越える保護者が親子キャンプに参加したいということである。また、親子で参加が難しい理由を選択したところ、1位 仕事が忙しい 2位 子どもの自立心の育成のため子どものみで参加させたい。であった。



子どもにさせてみたい活動 1位 潮干狩り さかな釣り 3位 カヌー であった。

《参加前と参加後で子どもの変化があったか?》 変化があった 7件 変化が無かった 3件
変化があった様子

- 朝起きるのが遅かったのですが、早起きになりました。片付けもちゃんとするようになりました。
- 家のことを手伝ってくれるようになった。(主に台所しごと) 家族への思いやりの気持ちを見せるようになった。感謝の言葉がきけるようになった。家での生活の中の当たり前の文明(テレビ、電気製品など)を見直しありがたみを感じているようだった。
- キャンプは良く参加していましたが海の体験は今回が初めてで「海はあまり好きではない」と言っていたのですが「海もおもしろかった。また行きたい」とうれしそうに言っていました。
- 海に飛び込んだことが印象的だったのか、よく話して、その飛び込む勇気を持たせたことが何かの自身になったのかもしれません。(乱筆すいません。)
- 9月に自然学校に行きます。カヌー体験、野外調理(カレー、カートンドッグ)等、自身がついて楽しみにしています。

《自由記入欄 キャンプの感想から 抜粋》

- とても楽しかったと言っていました。どの方もそれぞれにいい人ばかりだったと言っていました。お世話になりました。
- 冬キャンプもしていただけないでしょうか? 来年もぜひ参加したいです。ありがとうございました。
- キャンプ中の事をパソコンや携帯でブログを見ることができたのは、親として安心であり、楽しませてもらいました。スタッフの人はやさしく、あたたかく、子どもは愛情や親しみを感じることができたようです。食事作りも大変だとは思わずゲームを取り入れてくれたことで楽しめたようです。
- 暑い中、体調を崩すことなく海遊びを楽しみたくさんの学びや思い出を作ってわずかな間にひとまわりたくましくなれました。本当にありがとうございました。
- 食材取りゲームで思っていたものが取れなかったが、出来上がった食事がおいしかったようです。帰りに楽しかった。楽しかった。の連発でした。ありがとうございました。
- 得がたい体験の機会を提供していただき、大変感謝しています。企画、実行、子どもたちの世話まで大変だったと思いますが、スタッフの方々にこころから感謝したいと思います。ブログの情報提供など楽しく拝見しました。

1 1 .活動報告

キャンプ期間中にはブログを 34 回更新し子ども達の活動状況をなるべくリアルタイムで保護者の方にお伝えできるように努めた。また、解散前には期間中に活動と平行して作成した「ウォーターキャンプ速報」（3 日分 3 枚）を配布し、ご家庭への報告、参加者とご家族のコミュニケーションの一助となるよう努めた。（速報は別掲）

1 2 . ミーティング

年月日	内容
平成 22 年 1 月下旬	笹川スポーツ財団へ補助金申請
4 月 1 日	補助金交付決定
5 月 11 日	スタッフ説明会
5 月 25 日	第 1 回スタッフ会議
5 月 30 日	平成 22 年度第 3 回地区代表者会にて事業実施正式決定
6 月 6 日	第 2 回スタッフ会議
6 月 27 日	第 3 回スタッフ会議
7 月 11 日	キャンプ会議
7 月 25 日	神戸・明石地区保護者説明会及び現地リハーサル
8 月 1 日	キャンプ会議
8 月 5 日	淡路地区保護者説明会
8 月 13 日～15 日	キャンプ当日
8 月 22 日	写真展示会及び評価会
9 月～	報告書作成

キャンプに関する会議等は上記のとおりであるが、毎週火曜日の同窓会定例会においても随時キャンプについて討議、進捗の確認、準備作業などを行った。

13. 評価・反省

スタッフアンケート及び評価会で以下の意見があった。来年以降にぜひ生かしていきたい。

- ・大きなケガや事故がなく終われて良かった
- ・朝、ミーティングがあるのかないのかよくわからない
- ・工作を考える必要あり
- ・自分が楽しみ過ぎて、周りが見えてなかったりした
- ・キャンプに来るまで不安で仕方なかったが、実際に来てみたら、しんどい時もあったけどすごく楽しかった！！
- ・子どもと遊ぶのがこんなに楽しいとは思ってなかった
- ・事前の会議をもう少し要点をつめてほしい
- ・子供に自由時間を与える事をしたらいいかな
- ・スタッフ同士の連絡をもっと取るようにする
- ・キャンプ場を違う場所に使いたいです
- ・やはり小学生の数（7人）に対してリーダー、サブリーダー（2人）が適切な人数かなと思いました
- ・リーダー、サブリーダーに負担が多い（片寄っている）ように感じました
- ・広報の事前打ち合わせはもっと必要、担当者も増やすべき
- ・ケガなく終わったのが何よりですが、もう少し自由があっても良かったのではと思います
- ・うずしおを見に行く前に酔い止めは飲まずべきだった
- ・個々の役割とプログラム毎のリーダーを細かく分けた方がいいと思った
- ・最後にチェックする人を立てて、プログラムの移り変わりにメリハリがあるといいです
- ・スタッフの自己紹介があると良かった。自分から話をしていかない方もいらっしやるので
- ・海レク前に準備体操があればいいと思います
- ・外部参加の人にも主旨等分かるようにするとよりよいと思います
- ・物をなくす人が多かったので、持ち物管理に気をつける
- ・もっと子供に仕事を任せてもいいのでは？
- ・今回はウォーターキャンプなので、海辺の近くという事で、子供の行動に規制が多かったですが、またあるならもっと自由行動ができるようなキャンプも良い
- ・子どもの名刺交換もいいかと思いました（名前や呼び名以外に好きなこと等記載されていた）
- ・昨年のサバイバル的要素のキャンプから体験型のキャンプにされたことで、子ども達の交流時間が増えたことは非常に良かったと思います
- ・魚釣りのレクリエーションが良かった
- ・食材を自分達で調達し、調理できるプログラムを増やしてもいいかも
- ・BBQのとき班付スタッフ以外が手伝ってくれず、しんどかったが、2日目の海レクの時はスタッフが増えてやりやすかった。
- ・参加者募集がDMのみで弱かった。スタッフの数も去年より少なかった。
- ・昨年の洋大生がスタッフに加わってくれたのはよかった。
- ・食事の多い少ないがメニューによってあった。
- ・写真展の案内が解散時の口頭のみで、ほとんどできてなかった。
- ・裏方のスタッフをもっと増やす必要がある。会計担当は別に設置すべき。
- ・ブログの更新回数をもっと増やしたい。

14. おわりに

子ども達は日頃は自分たちで自炊する習慣がなかったり、自然と触れ合う機会が少ない中で過ごしていると思います。しかし、2泊3日と短い間でも班の仲間とコミュニケーションをとりながら、協力して活動していく中で積極的になり、新しい友達との絆が芽生えてきたようです。普段とちがって、日の出とともに活動し、夜の静けさとともに床に就く、そんな生活は一生忘れられない思い出になったと思います。

また、スタッフとして参加した同窓会生も事業の企画から関わったり、子ども達と触れ合うことで多くのことを感じ、学ぶことができました。

洋上大学同窓会として、今後とも青年リーダーの育成や地域や社会に役立つ事業の一つとしてキャンプ事業を展開していきたいと思います。

本事業を実施するにあたりご支援、ご指導いただきました関係各位に厚く御礼申し上げます。ありがとうございました。